

令和7年度 第2回神戸市就学・教育支援委員会

議 事 要 旨

- 1 開催日時 令和7年9月25日（木）15時30分～17時
- 2 開催場所 神戸市総合教育センター701号室
- 3 出席委員 石倉委員長、小林委員、上原委員、高田委員、河崎委員、関口委員、西田委員、
二宮委員、中西委員（オンライン）
オブザーバー 米谷校長、前田校長、島崎園長
- 4 議 事
「特別支援教育相談センターの充実」（資料1）

【特別支援教育相談センターの充実】

●委員長

- ・就学相談の面談担当者を昨年度から2名増員ということであるが、対応できるだけの人が配置できているか。
- ・中学校に向けての学びの場の変更についての報告があったが、学びの場の変更についてはその後スムーズにいつているのか。
- ・学校支援チームに関して、地域校への訪問や研修などは、学校側からの依頼に基づいて訪問しているのか。

○事務局

- ・2名増員して、5歳児の就学相談の枠を増やした。増員した分で、相談センターでもできる限り相談を受けている。また、保護者や子供の居住地に近いところで相談を受けられるように、相談員が区民センターなどで対応をしている。
- ・中学校進学に向けての学びの場の変更については、保護者から子供の様子を聞いたうえで、ふさわしい学びの場はどこかを相談し、その内容を在籍する学校に返している。小学校に情報提供をして、小学校の先生方と保護者がもう一度相談をすることになるが、中学校とも連携をとってもらい、情報共有しながらスムーズな学びの場の変更ができるように努めている。
- ・学校支援チームへの依頼は、学校からの依頼が多い。
その他にも、教育委員会の指導主事が学校を訪問し、学校状況の確認から、学校支援チームの活用につながったケースも複数あった。アドバイスにより、学校がどのように変わったのかを確認するため、2学期以降把握していく。

●委員長

- ・就学相談は、人員が増えた分に対応できているということで安心した。
- ・学びの場の柔軟な変更については、文部科学省の日本型のインクルーシブ教育の推進を考えると、今後ますます求められていくことになると思う。それがどうやったらうまく実現できるようになるのかを、今後、知見を重ねていってもらえればと思う。

●委員

- ・5歳児の就学相談は、就学前の年長児を対象としていると思う。特に肢体面のハンディキャップをもっている方が肢体不自由学級を検討していることを考えると、年長になってからでは遅いと思う。だから、受付を少し早くしていただけたらありがたい。
- ・中学校の特別支援学級へ行くことを躊躇される方は、特別支援学級へ進学すると、高校進学への道が閉ざされると思われる方が多い。内申書があるので、特別支援学級へ行った時点で、特別支援学校の高等部へ行くことが決定になるという考えを持っている方が多い気がする。実際のところ、中学校の特別支援学級に入っている方の進学状況を教えていただきたい。
- ・今年度から、各保健所に、こべっこ発達支援チームという、発達の相談を受け付けるチームができています。平均的には2～3歳の方が多いが、そこに5・6歳の方で、就学相談を目的に相談される方がかなり混じっている。教育委員会でやっている仕組みと、こべっこ発達チームの仕組みをうまくつなげてもらいたい。

○事務局

- ・就学相談については、入学前の5歳児を対象として実施している。中学校進学に向けた相談については、小学4～6年生を対象としている。4歳児やその前からも対象にしてもらえたらという話だが、5歳児への相談件数と相談体制を見ながら、対象年齢について検討していきたい。

○事務局

- ・今後5歳児健診が実施されるようになると、就学相談等を案内してもらうようなケースも出てくる。ニーズの傾向や動向も見ながら、就学相談をどのように考えていくか、計画していくか、今後検討していきたい。

○事務局

- ・昨年度、中学校特別支援学級の卒業者は205名。主な進路は、特別支援学校が77名、県立職業科の特別支援学校が41名、全日制普通高校が2名、通信制高校が36名。私立高校や定時制高校に進学しているケースもあり、多様な進路に対応している。

●委員長

- ・神戸市の5歳児健診はどのようなになるのか。5歳児健診はやっている自治体とやっていない自治体、いろいろあると思うが。

●委員

- ・今のところ、神戸市は個別方式という形で進んでいる。個別方式というのは、年中の子供を各開業の先生方のところで診てもらう。この場合、9か月健診でやっているような方式になるが、そこで何らかの課題があるという方は、各区役所で受け入れて、さらに特別な療育が必要であれば、アドバイスをしていく。就学年齢が近いので、そこから就学相談へ流れる方は非常に多いと思う。令和9年度あたりから、そういう健診のスタイルが始まるのではないかと思う。

●委員長

- ・開業医と言うと、小児科の開業医か。

●委員

- ・小児科の開業医だけでできればよいが、地域によっては人数的になかなかカバーできない場合もある。内科の先生方の中からも体制が整い次第、応援すると言っている。集団方式では、スペースや日時が選べないなどの問題から、今のところ個別方式をとっている。

●委員

- ・学校支援チームの地域校への訪問については、どういう基準で学校を訪問したのか。また、同じ学校に2回以上行っているところもあるということだが、なぜ複数回訪問したのかをお聞かせいただきたい。

○事務局

- ・学校からの希望があり、訪問している。
- ・複数回の訪問については、学校からの依頼が学年をまたいでいるところもあるからである。例えば、多くのクラス数となると、1日では難しい。学校によっては全クラスをというところもあり、最低でも3日間になる。

●委員長

- ・依頼が出るところはよいと思うが、本当に心配なところは依頼があがってこないのではないかという不安もある。

○事務局

- ・先ほど申したように、教育委員会の指導主事が学校を訪問し、学校状況を把握している。また、地区統括官から聞いた学校状況を活用し、学校支援チームが行った方がよいという話を聞いたときには、学校と連携を取るようにしている。指導主事や地区統括官、またその他からの情報をもとに、学校支援チームをうまく活用していきたい。

●委員

- ・家族や医療機関が巡回を依頼することはできないか。学校の対応が、家族の希望するようにならないことを聞くこともあるが、学校の先生が医療機関に来てくれて話を聞いたとき、家族から聞いた話とちょっと違うなと感じることもあったので、やはり両方から話を聞かないといけないなということがあった。

○事務局

- ・学校生活の中で子供たちがいきいきと生活できるように動いている。学校を応援することにより、子供たちの学校生活がよりよいものになっていくことにつながっていると思うので、学校支援チームとしては、学校からの依頼を受けて動いている。医療機関と保護者との間で話があり、必要な場合は学校に働きかけてもらい、学校からの要請を受けて動くようにしている。

●委員

- ・家族または医療機関が学校に申し出て、巡回をお願いすることは可能か。

○事務局

- ・可能である。

●委員

- ・就学相談については、最近かなり周知されていると思う。ただし、支援内容や仕組みについて知られていないことも多く、子供の適切な就学先について、初めて悩み始めるというのが現状である。就学相談のアフターケアが実際にどのように行われているのかというのが疑問である。
- ・学校支援チームについては、障害理解や全体の概要的なことが多く、その後学校でどのように取り組んだのかが必要ではないか。訪問を通して、その後自分たちで研究会や報告会・事例会を設定していくことが必要ではないか。巡回後、学校自体が動くような方向にもっていかないと、学んで理解しただけで終わるのではもったいないと感じた。

○事務局

- ・就学相談のアフターケアについては、丁寧に対応していきたい。学校にも、保護者と根気よく相談してもらえよう、特別支援教育相談センターから啓発していきたい。
- ・学校支援チームについては、今年度スタートしたばかりであるが、今後管理職研修等で事例を紹介し、参考として使っていただけたらと思う。また、うまくいかなかった事例も紹介していく。
- ・いただいたご意見を今後生かしていきたい。

●委員長

- ・就学相談の内容が、学校にどのように伝わっているのか、学校での対応にうまく活きているのかどうか、状況を教えていただきたい。

○事務局

- ・就学相談では、保護者の同意のもと、相談内容を進学先に情報提供している。保護者の意向や子供の状況を確認したうえで学校に伝え、保護者には、必ず学校と相談してもらうようにしている。
- その後、学校が保護者をどのように受け入れて話を聞いているのかが一番大きなところなので、学校が丁寧に保護者や子供の様子を見て、相談にのりながら、適切な就学につなげていきたい。

●委員長

- ・相談内容については情報提供、引継ぎはなされているということだが、その後どれくらい学校でうまく活用されているかが大事になる。
- ・就学相談や学校支援チームの動きなど、オブザーバーの先生方から気になっていることがあったら伺いたい。

◇オブザーバー

- ・今回、就学相談の枠を大きく広げ、中学校進学に向けた個別の相談も実施しているので、学校にとってはとても心強い。学校が周知して、うまく活用していくことが求められているので、今後は学校同士で連携し合いながら進めていきたい。

●委員

- ・保護者から就学の相談があった場合、小学校が園へ見学に行き、情報を取ることがあるが、提供した情報が、引き継がれていないというケースを聞く。
- 職員の転勤等いろいろな事情があると思うが、誰が担当しても情報を引き継いでいけるようになれば、学校への信頼感にもつながっていくと思う。

○事務局

- ・真摯に受け止めて啓発していきたい。
- ・就学相談をした際には、面談記録と共に「ネットワークプラン」も同時に作成して、学校に届けるシステムを作っている。しかし、そのシステムがうまく機能していないことが考えられるので、今後、学校現場に伝えていきたい。

○事務局

- ・委員の皆さん、本日はたくさんのご意見をいただきましてありがとうございます。いただいた意見を含めて、今後、どのように特別支援教育の推進につなげていくのかということ、引き続き考えていきたい。